

書評：中国軍の軍事専門家が米国の衰退とそれに伴う若干の国際問題を論述
漢和防務評論 20140424

阿部信行

(訳者コメント)

最近、中国軍内で、一部専門家による米国の衰退を前提とした中国の戦略に関する著書が見られるようです。しかしすべての中国軍内専門家が米国の長期的衰退を予想しているわけではなく、一時的であると見る専門家もいます。日本人の我々から見ると、米国が衰退する前に中国社会が崩壊するのではないかと思います。

中には、米国人は人員の死傷を恐れるので、中台戦争で米国が軍事介入した場合、米国空母を1ないし2艘撃沈すれば米国は戦争から退出する、との楽観論も見られるようです。

漢和防務評論の記事を紹介します。

資料1：

「アジア地区の戦略情勢と調和のとれた海洋秩序建設」

主編集者：施建宇

世界知識出版社

資料2：

「中国の特色ある社会主義の堅持と発展に関する優秀論文」

主編集者：施定凱、蘇加毅、丁耀、劉壺松、孫家榮

国防大学出版社 2012年10月第一版

資料3：

「中国の特色ある社会主義路線を踏み外すことなく前進し、党の十八大精神を学習する優秀論文」

主編集者：蘇加毅、丁耀

藍天出版社 2012年11月第一版

資料4：

「米台軍事関係の変質と中国統一戦略の選択」

著者：蔡華堂、李英明

国防大学出版社 2012年4月第一版

KDR 北京特集報道：

近年来、中国軍の若干の軍事専門家は、中国を取り巻く戦略環境等、中国の軍事戦略問題を集中して研究している。本誌は、この中で特に注目に値するものを紹介する。

資料1：戦略学者である樊高月は次のように記述している：私は、冷戦終結後の20年を米国の絶頂期の20年であると考え。したがって米国の衰退は当然でありすでに始まっている。どこにそれが現れているか？ある人は”9.11”であると言ひ、ある人は”イラク戦争”であると言う。私は、イラク戦争であると考え。私は、米国の衰退の過程は長い期間かかり、少なくとも2060年以降まで続く、その後、米国は二流の強国に没落する。米国が没落したならば、少なくともどの位の数の国が米国に取って代わり世界の大国になるか、どの国が希望を持てるか？今のところ、中国しかないと考える。

しかし私は、現在いくつかの問題が存在すると考える：米国は一步一步緊迫度を高め、我々は一步一步後退している。中米間のこの引くに引けない四つ相撲の関係から脱却するには、中国の力を外に向かって用い、中国とEUとの関係、アフリカ諸国との関係、ラテンアメリカ諸国との関係を発展させねばならない。もしこれらの関係の処理がうまくいったならば、我々の地位は強化され、米国との闘争から脱することが出来る。

○米国の衰退は一時的であろう

朱成虎少将：米国の地位低下の問題については、中国はよくよく研究する必要がある。この問題は、学術的にも大きな論争がある。これは一種の古い考え方であり、米国の衰退は一時的であろう。

学者、陳学恵：私は、我々の周辺環境が戦略的摩擦期に入ったと考える。

王效軒：私は、現在の中国の海上安全状況について、第一の考えは、全体的に安定し、中国は大局を支配していると考えており、大きな問題は発生しないと考える。第二の考えは、対立が深まり、状況が複雑になり、海上の不安定さが長期にわたって存在すると考える。

朱成虎少将：大国関係の中で、中米関係は最も重要な二国間関係である。米国はこれほどまでには認めていないが、最も重要な二国間関係の一つとは認めている。しかし米国が認めようと認めまいと、中米関係は最も重要な二国間関係である。米国は、外交上、常に米国中心主義を貫いている。これは中国にとって脅威であり、我々が研究しなければならない重要なテーマである。

現在南シナ海問題に関して、国際的な言論戦が激しくなっており、ベトナム、フィリピン、シンガポール、マレーシア等は、国際会議で常に南シナ海問題を取り上げ、会議上で思う存分中国を攻撃している。

郭佩芳：我々は、今まで科学的な国家海洋戦略体系を持たなかった。特に国家として海洋政治戦略を持たず、長期的かつ明確な政治姿勢を示してこなかった。

今後の推移を考えると、中日間の海上での摩擦は常に存在し、米日が協力して海上から中国の企図を阻止する戦略は変わることはない。日本は今後防衛の重心を東シナ海及び南シナ海の方に延伸する趨勢は変わらない。

海軍指揮学院、馮梁：米国は、伝統的に中国の海上安全政策を最大の外部脅威と位置付けている。両国間には、譲歩が困難な対立が存在する。従来の安全保障環境に於いては、米国の我国に対する戦略抑止姿勢が海上において特に顕著であった。しかし（テロ対策など）従来なかった安全保障領域においては、米国は我国に対し接触を保ち協力を求めている。最近の数年間、米国は、ベトナム、フィリピンを先頭にしてアセアン諸国が連合して我国に対抗するよう何度も扇動し、ASEAN 組織を利用して各成員国の軍事力を中国の南シナ海における主権要求に対抗させようとしている。これは危険な兆候である。

上海の国際問題研究院の研究員、蔡鵬鴻は：米国は PSI（大量破壊兵器拡散防止構想）を提議している。表面上は、北朝鮮を狙っているが、実体は中国を狙ったものである。なぜなら米国は長年にわたって、中国を大量破壊兵器拡散国家のリストに入れているからである。米国は中国を、南アフリカ、パキスタン等の国家と同一の等級に指定し、大量破壊兵器の拡散と転移の可能性が最も高い国家群に含めている。米国は、表面上中国に加盟を要求しているが、同時に中国をブラックリストに載せている。中国は、PSI 加盟の可否に関して慎重な姿勢を採っているが、それには理由がある。その理由とは、PSI の法的根拠が不十分であるからだ。

○米軍が台湾海峡紛争に介入した場合の見返りに関する研究

資料4は次のように述べている：台湾問題で中米両国が軍事衝突に発展する可能性を考慮する場合、米国は最大の見返りを求めることを中国は理解しなければならない。米国の国家利益の観点からのみ、明快な答えが得られるであろう。台湾は、米国の国家利益にとって如何なる地位にあるのか？ある意見によると、

台湾問題は米国の核心利益に属さず、もし海峡兩岸で軍事衝突が発生した場合、米国は介入しない、と。

米国は、台湾問題で常に現実主義的態度を採っている。すなわち台湾海峡の情勢の発展に応じて機敏な対応戦略を採っている。たとえ米国が台湾問題を核心利益の範疇に入れなくても、米国が台湾海峡の衝突に軍事的手段で介入しないことを意味しない。現在及び予見できる将来、中米両国は、軍事力を含め総合国力の差が依然として存在する。米国が台湾地区を重要な利益に関わる地区であると見る姿勢は、大きく変化することはない。米国が台湾海峡に武力介入する可能性を完全に排除することは出来ない。

米国の介入の度合いに関して、国家利益だけでなくその他の要素も考えられる。人員の死傷の規模も重要な要素である。中国の相当多くの人々は：米国人は死傷者が出ることを恐れるので、我々は、米国軍人に大量の死傷者が出るように仕向ければ、米国は必ず退却する、と考えている。したがって中国が武力をもって台湾問題を解決する際、もし米国が軍事的干渉を行った場合、中国が1乃至2艘の米国空母を撃沈しさえすれば、米軍に膨大な数の死傷者が発生し、米軍はさらなる人員の損失を恐れて戦争から手を引くはずである、と。このような観点を持つ人は、ものごとを一方面からしか見ない人だ。なぜなら如何なる国家の軍隊であろうと、一部の人員の損失によって輕易に競争から退出することなどあり得ない。米国は、建国以来多くの戦争を戦った。現在までに、人員の死傷を恐れて主体的に戦争から退出した事例はない。

またある種の意見は：米国は、朝鮮半島とベトナムで中国と戦ったが失敗した。その例から米国は心理的に劣勢にあるので、敢えて再び中国と戦おうとはしないはずだ、と。しかし我々は、米国の失敗の原因を正しく検証する必要がある。朝鮮半島でも、ベトナム戦争でも中国は全力で戦ったわけではなく、しかも一部の国家特にソ連から大きな支援があったのだ。一方の米国は一部の戦力を使っただけだ。米国を打ち負かす過程で中ソの連繋は重要な働きをした。中国の核戦力は限りがあるが、米国に破滅的な打撃を与えるには十分だ。

○台湾独立のための突発事態に備えるため、応急的な作戦メカニズムを建設すること

資料4は次のように提議している：第一、国家レベルで反”台湾独立” 応急作戦指導グループを成立させ、迅速、正確な意思決定と指導を行う。第二、応急作戦司令部を成立させ、”台湾独立” 分子に対し、高圧の態勢を保持する。中国は、1950年代のやり方を参考にし、特別の戦区或いは反”台湾独立” 応急作戦司令部を成立させ、反”台湾独立” の早期警戒メカニズムを建設する。

○マラッカ海峡の難問題を如何に解決するか

資料2は次のように提議している：中国の国際貿易において、戦略水道であるマラッカ海峡への依存度はますます高まっている。現在マラッカ海峡を通過する船舶の60パーセントは中国船である。中国の輸入する石油の70パーセントはこの水道を通らねばならない。米国は、すでにシンガポールのチャンギー基地への駐屯権を取得し、中国の発展のネックを抑えている。”マラッカ海峡の難問題を如何に解決するか”我軍が新たな歴史的使命を果たす上で、新たな挑戦となろう。

以上